

摂食時の顎筋活動発達過程の縦断的解析

Presented in San Diego



目で見ると
海外論文発表

山田 雅治*

Developmental changes of jaw-closing muscle activities for rhythmic ingestive behaviors in rats

Key Words : suckling, mastication, EMG, longitudinal study

<参加会議名>

American Physiological Society Intersociety Meeting in Comparative Physiology

<開催場所> San Diego, California, USA

<渡航期間> 2022/10/27~11/1

<発表タイトル>

Longitudinal electromyographic analysis of jaw-closing muscle activities during ingestive behaviors from pre-weaning to juvenile periods in the rats.

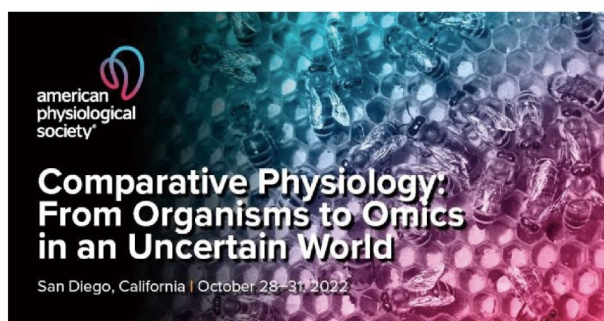
American Physiological Society は 1887 年に設立されたアメリカで最も古い学会の一つであり、Comparative physiology は本学会が主催する学術大会のうちの一つです。「from Organism to Omics in an Uncertain World」をテーマとし、生物の発達における生理的プロセスに関して、アメリカをはじめ、世界各国の研究者が San Diego に集まり、活発に議論が行われた大会でした。

私はここで、ラットの咀嚼機能の獲得と成熟に関わる成長発達について口演で発表させていただきました。Native の英語を聞き取ることすら精一杯な一面もありましたが、質問を通して国籍や研究テーマの異なる研究者と議論を行うことで、研究の課題点を明確に言語化することができました。本発表では幸いにも Travel Award を受賞することができ、その嬉しさも加わり、本学会発表が今後の研究のブ

レイクポイントになるのではないかと期待を胸にしての帰国となりました。本大会を通して親しくなった研究者との繋がりも、SNS 等を駆使し、今後大事にしていきたいと考えております。

スライド作成や英会話、新型コロナ禍での渡米計画（日本やアメリカ、大学の新型コロナに係る海外渡航基準が頻繁に修正された時期でした）など、準備に押しつぶされそうにもなりましたが、今回の出張は非常に有意義な時間となりました。

最後に、このような貴重な機会のご支援を賜りました生産技術振興協会に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。



* Masaharu YAMADA

1994年5月生まれ
大阪大学歯学部卒業（2019年）
現在、大阪大学大学院歯学研究科口腔科学専攻高次脳口腔機能学講座 博士課程、歯学部附属病院 歯科医師 学士（歯学）専門/口腔生理学、歯科麻酔学
TEL : 06-6879-2882
E-mail : maaak@dent.osaka-u.ac.jp

上 段：本大会のポスター
中段左：緊張した顔持での質疑応答
中段右：発表後に指導教授と（安堵した様子）
下 段：西海岸特有の陽気な San Diego の景色